

コンサルテーション事業報告

| | | | |
|--------------------|---|-------|------|
| 事業の名称 | 生成 AI を自由自在に 使いこなす | 事業代表者 | 中島 平 |
| 対象 | 大学の学生、ポスドク、研究生 | | |
| 目的と内容 | 急激に進歩する生成 AI 技術を活用し、研究活動における調査、学習、論文執筆支援などを通して生成 AI の実践的な活用能力を育成することを目的とする。スタッフは 2023 年 3 月以来、常に最新の生成 AI を教育・学習・研究・仕事に活用して学び続けており、AI に関して深く広範な実践経験がある。本事業では、この学びの対象者を広げ、AI とその効果的な活用方法を学び続けるコミュニティとして活動する。 | | |
| 実施日 および 実施回数 | 週一回木曜日を目安に随時、フォーマルな集まりは 10 回。以降は個別や小グループでの学び合いに移行。 | | |
| 実施場所 | オンラインまたは文学部棟 4F VR 実習室 | | |
| 主なスタッフ | 中島 平 (本研究科) | 人数 | |
| | YAN WANXIN (本研究科) | | |
| | 澤田亮 (高度教養教育・学生支援機構) | 3 人 | |
| スタッフの 活動内容 | <p>基本的には対象者が生成 AI を使用する際に生じる疑問や困難点をスタッフの知見を活用して解決すると共に、コミュニティーとして、新たな AI の活用方法を探求する。スタッフは自らが AI を活用しつつ、得られた知見をコミュニティー内で共有する。主な役割分担として、中島は企画、エンは社会実装、澤田は AI のシステム開発を担当する。AI の知見紹介は全員で行う。扱う具体的なテーマ例は、以下が挙げられる。</p> <p>1.人間と AI の良好な関係性の構築</p> | | |

| | |
|--------------------------|---|
| | <p>2. AI の活用による自分一人では到達不可能な知的領域の探索</p> <p>3. AI との共同作業による創作活動</p> <p>4. 研究における AI の活用</p> <p>5. AI エージェントの設計と作成</p> |
| <p>2024 年度 活 動実績</p> | <p>第 1 回 5 月 29 日 顔合わせ</p> <p>第 2 回 6 月 6 日 AI ツール (ChatGPT、Gemini 1.5 Pro、Perplexity) の 1 週間の使用経験について、メンバーから R コードの解釈支援、論文要約、歌詞解釈、HVPT 研究調査、日常会話、レポート課題評価、実験マニュアル作成など、様々な活用事例と課題が共有された。</p> <p>第 3 回 6 月 13 日 参加者が AI 活用事例を共有：書誌情報変換、(MRI 解析計算、論文作成・読解支援、画像生成と精度検証、学会準備と人間と AI の価値について考察。</p> <p>第 4 回 6 月 20 日 研究、プログラミング、文章作成など様々な用途に特化した AI ツール (Claude3, Consensus, Perplexity Pro, Elicit, Research Rabbit, Zotero, Gemini, ChatGPT, Suno AI, 文言一心, Cursor) の特徴と活用方法について議論。</p> <p>第 5 回 6 月 27 日 AI ツール(ChatGPT, Claude, Gemini, Perplexity)の活用事例について情報共有：キャリア相談、研究支援、旅行計画、英文チェックなどの活用報告があった。</p> <p>第 6 回 7 月 4 日 第二言語の感情語彙習得研究、AI 活用による研究支援、学習支援に関する議論を行い、ChatGPT、Perplexity、Elicit などの研究ツールの効果的な使用方法について意見交換。</p> |

第 7 回 7 月 11 日

AI 活用に関する議論：論文フィードバック、音声対話テスト、翻訳機能、プロンプト改善、英作文添削の正確性検証、および思考促進方法について意見交換。

第 8 回 7 月 18 日

研究の進捗報告：AI 活用（プロンプト作成、音声認識テスト、データ可視化）についての議論と課題共有を実施。

第 9 回 7 月 25 日

論文のイントロ修正、Gemini での曲当てクイズ、Cursor エディタの活用方法、AI を用いた英語文法チェックなど、各自の AI 活用事例について共有・議論。

第 10 回 8 月 1 日

論文の図のフィードバックを Claude 3.5 に依頼する方法と、E-Prime のネスト構造の実験デザインについて、Mermaid 記法やスクリーンショットを活用した可視化方法を検討。

以降はフォーマルに全員が集まるのではなく、適宜個別に学びあっている。